

整備効果1 災害に対する強靱な道路ネットワークの確保

奥漣道路・奥漣道路(Ⅱ期)の整備により、国道169号の交通不能区間※、すれ違い困難区間・見通しの悪い区間の解消が図られてきました。しかしながら、奥漣道路(Ⅲ期)の事業区間に並行する国道169号では、依然、すれ違い困難区間や防災点検要対策箇所などが残存しています。

奥漣道路(Ⅲ期)の整備により、これらの問題が解消し、災害時の物資輸送や復旧・復興活動において、迅速かつ円滑な交通が確保できることが期待されます。

※平成8年に、車による通行が不能だった区間(3.7km)が開通し解消。

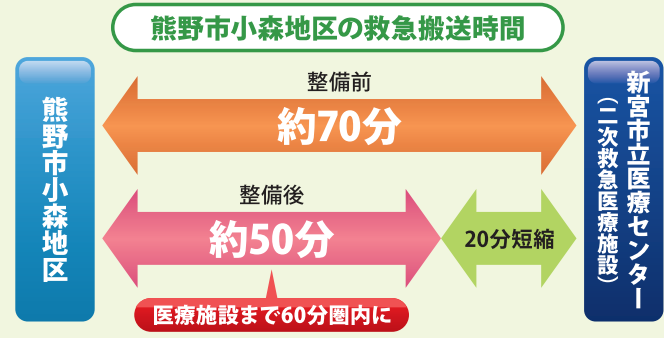


国道169号の法面の落石状況(防災点検要対策箇所) 幅員が狭く、すれ違いが困難な国道169号の現況

整備効果2 救急医療活動の支援

奥漣道路(Ⅱ期)の開通により、北山村～新宮市熊野川消防出張所の所要時間が短縮することが後押しとなり、北山村と新宮市で消防の広域連携体制が構築されました。

奥漣道路(Ⅲ期)の整備により、北山村や熊野市小森地区から新宮市医療センターまでの所要時間が短縮すると予想され、救急医療施設への60分圏域※の拡大等、救急医療体制の更なる向上が期待されます。

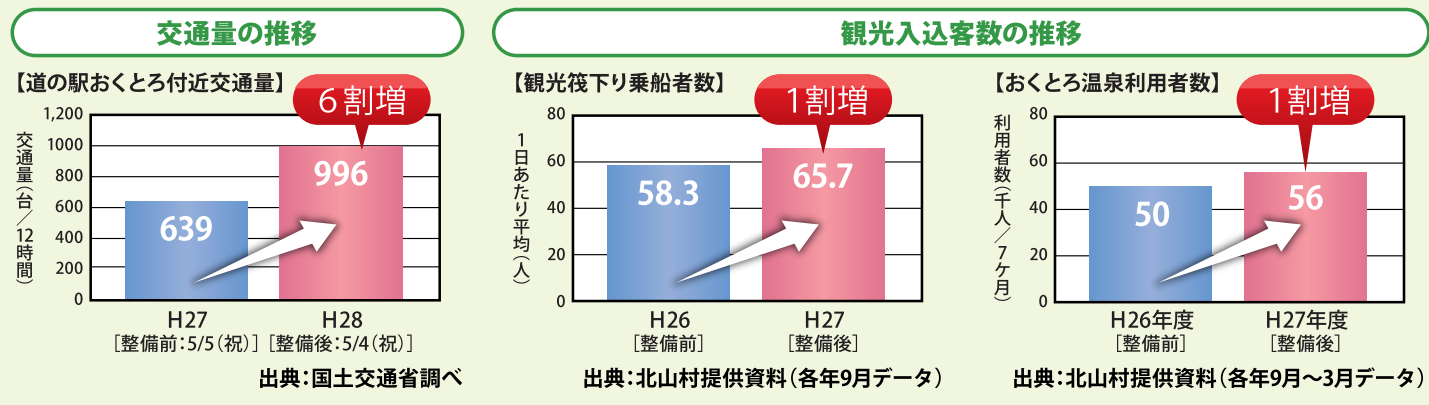


出典：民間プローブデータにより算出
※救急医療施設へ60分以内で到達可能な圏域。多量出血の場合、約60分で致死率が100%となることから、1つの目安として扱われる。

整備効果3 地域経済等への寄与

奥漣道路(Ⅱ期)の開通後、道の駅おくところ付近の交通量が増加し、観光筏下りの1日あたり乗船者数やおくところ温泉利用者数も増加しています。

奥漣道路(Ⅲ期)の整備により、北山村へのアクセス性が増すことで、さらなる周遊観光の拡大や観光客の増加が期待されます。



新宮市 熊野川町・東牟婁郡 北山村 「飛び地」ってなに

新宮市熊野川町玉置口地区と北山村は、和歌山県にありながら周りの全てを奈良県と三重県に囲まれ、「飛び地」という全国でも特異な地域です。これは、この地域が陸の孤島であり、木材の輸送には専ら河川を利用した水運で、和歌山県の新宮と密接につながっていたことに端を発しています。明治維新までは紀州新宮藩の支配下にあり、廃藩置県の際、新宮と共に和歌山県に編入されました。そのため、周囲の全てが他県となって、同地域だけが和歌山県としてボツンと取り残された飛び地村が誕生したわけです。

国土交通省 近畿地方整備局 紀南河川国道事務所

〒646-0003 和歌山県田辺市中万呂142 Tel.0739-22-4564(代)
【ホームページアドレス】http://www.kkr.mlit.go.jp/kinan/

道の駅「おくところ」(北山村)

道路の異状を発見したら 道路緊急ダイヤルへお知らせください。 #9910 24時間受付

2023.3

一般国道169号 奥漣道路(Ⅲ期) 地域の夢と活力を育む道づくり



災害に強く安定した地域間交通を実現し、円滑な救急活動や地域経済のさらなる発展に寄与します。

一般国道169号 奥漣道路(Ⅲ期)

事業の目的

- 災害に対する強靱な道路ネットワークの確保
- 救急医療活動の支援
- 地域経済への寄与

事業の概要

奥漣道路(Ⅲ期)は、開通した奥漣道路及び奥漣道路(Ⅱ期)の延伸区間となる道路で、平成28年度に事業化されました。奥漣道路(Ⅲ期)の事業区間は、防災点検要対策箇所が多数存在し、巨大な浮石・転石が見受けられ、異常気象時通行規制区間に指定されています。また、幅員狭小区間・線形不良区間などが連続しており、すれ違いが困難かつ見通しも悪く、通行に支障をきたしています。

隣接する奥漣道路は平成20年7月12日に、奥漣道路(Ⅱ期)は平成27年9月13日に開通しました。両区間ともに災害時や緊急時における交通機能を確保するとともに、沿線地域の活性化と交流促進を図るために計画された道路です。

奥漣道路(Ⅲ期)がこれらの機能・効果をさらに高め、災害に対する強靱な道路ネットワークを確保、救急医療活動の支援や地域経済等の発展に寄与するために、引き続き整備を進めていきます。

奥漣道路(Ⅲ期)に寄せる地域の期待

救急 救急活動のスピード化 命の道の整備促進を

熊野市消防署 紀和分署長：徳山 誠一さん

サービス 安定したインフラ環境へ 延伸整備の早期実現を

大沼郵便局 局長：山本 亮さん

観光 じゃばらの里での交流機会の増加へ 地域のさらなる活性化に期待

観光事業の発展に期待 北山村の魅力発信へ

観光筏下り 筏師：山本 正幸さん

じゃばら生産組合 組合長：東 幸則さん

「じゃばら」は、全国でも北山村にしか自生していなかった特産品です。山と川に囲まれた北山村にとって道路整備は、村の魅力の発信、村外との交流を図る上で必要不可欠です。平成27年度の「じゃばら祭り」では、例年より来場客が増加しており、奥漣道路の整備によって、以前より村を認知してもらえる機会が増えたと感じています。

また、年々じゃばら栽培人口や生産量も増加しており、じゃばら産業の活性化にもなっています。奥漣道路(Ⅲ期)には、さらなる地域産業の発展や交流機会の増加などに期待しており、早期の整備を願っています。

郵便事業は、北山村の通信・物流を担う重要な生活インフラです。毎日の集配に加え、近年では「じゃばら」の配送に利用して頂くことも増えています。

しかしながら、まだ村内の配達に時間を要する地区もあつたりします。また、郵便は、災害時においても届ける必要があるため、道路の通行不能により、集配が出来なくなることが不安です。村民の暮らしを守る上でも、奥漣道路(Ⅲ期)は重要です。

北山村の伝統である「筏流し」から発展した観光筏下りは、全国唯一の筏による急流下りとなっており、村の人気観光メニューとなっています。

近年では国内でも遠方の方や、海外からのお客も増えており、お客さんからは奥漣道路の整備により、村が近くなったとの声も頂いています。

今後、奥漣道路(Ⅲ期)が整備されると、村へのアクセスがさらによくなります。例えば近隣市町で宿泊された方が、朝食をすませて朝の第一便に間に合うようになったり、これまで遠回りしていた大型バスで村に來やすくなることから、観光事業のさらなる活性化に期待しています。